

未来

人権教育啓発シリーズNO.3



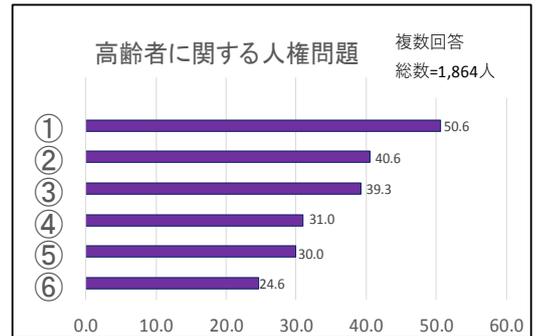
毎年9月21日は世界アルツハイマーデーと制定され、さらに9月は世界アルツハイマー月間として世界各国で様々な啓発活動が行われています。今回は「高齢者」の人権について考えてみたいと思います。

安心して笑顔で暮らせる社会を！



現在日本では、ほぼ4人に1人が65歳以上の高齢者となりました。2040年には3人に1人が65歳以上の高齢者となることが予想されており、高齢者の尊厳が確保され、安心していきいきと暮らせる社会を築いていくことが望まれています。

しかし、高齢者に関する人権問題は様々な場面で生じているのが現実です。内閣府の調査でも、右のグラフのように、①**悪徳商法の被害が多いこと** ②**経済的自立が困難なこと** ③**働く能力を発揮する機会が少ないこと** ④**邪魔者扱いされたりつまはじきにされること** ⑤**病院や施設における処遇や虐待** ⑥**家庭内での嫌がらせや虐待**などが挙げられています。



内閣府「人権擁護に関する世論調査」より (H24)

さらに、最近では、**災害時における問題**も指摘されるようになり、4月に京都で行われた国際アルツハイマー病協会国際会議でも、「認知症と災害」が主要のテーマの一つになりました。

これらの問題を少しでも防ぐには、「自分には関係がない」「大変そうだな」と他人事として捉えるのではなく、自分の家族や自分の身の回りの人も当事者になり得る問題として理解を深め、自分にできることは何かを考えることが大切です。そして、私たち一人一人が高齢者に対する尊敬や感謝の気持ちを忘れないことが、高齢者が笑顔で暮らせる社会作りに繋がるのです。

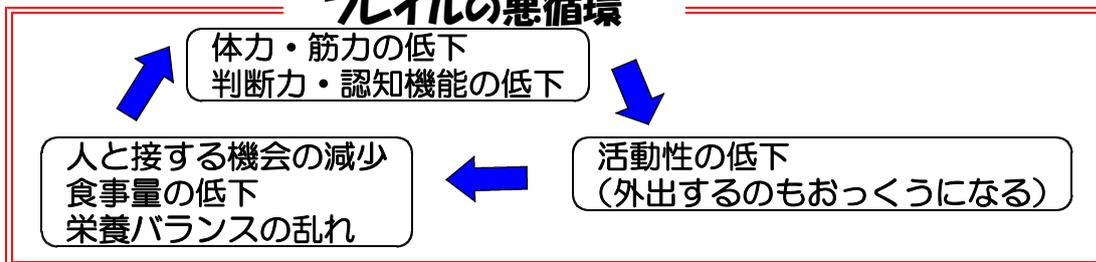


フレイルとは・・・ ~新しい考え方~



2014年から、日本老年医学会が「フレイル」という概念を使用するようになりました。この「フレイル」とは、高齢になって筋力や活力が衰えた段階のことで、健康な状態と要介護状態の中間の状態のことです。高齢者の多くが「フレイル」の状態を経て要介護状態となり、65歳以上の11%（日本では約300万人）がこのフレイルの状態にあると言われています。

フレイルの悪循環



このフレイルの状態を放置すれば介護が必要な状態に陥り、場合によっては生命にもかかわってきます。しかし、早期に発見し適切な対応をすれば、元に戻れることもあり、心身のよい状態を長く保つことができます。

年をとると誰もが生活範囲が狭くなり、社会とのつながりが薄れ、気持ちがふさぎ、あまり食べなくなる・・・といったフレイルの状態になりやすいということをしきりと理解することが大切です。そして、その人の状態に応じた温かな声かけやかかわりをしていくことが必要です。

